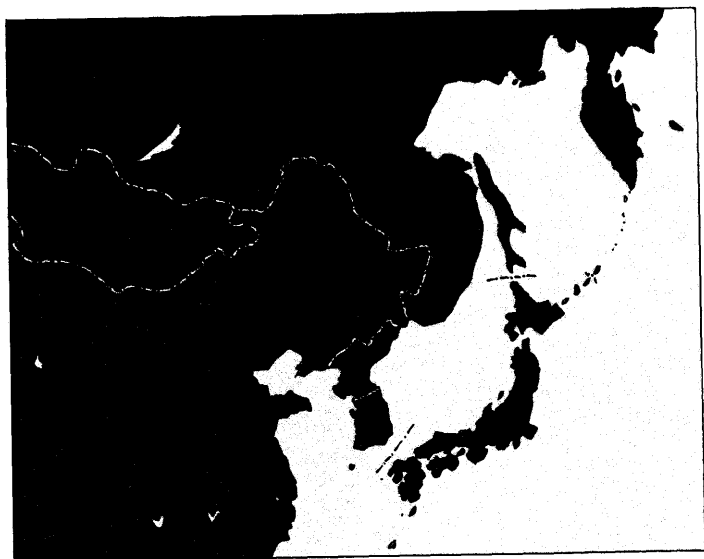


アジアの経済圏シリーズ II

# 東北アジア経済圏の胎動

東西接近の新フロンティア

嶋倉民生編



アジア経済研究所

アジアの経済圏シリーズ II

# 東北アジア経済圏の胎動

—— 東西接近の新フロンティア

鳴倉民生編

アジア経済研究所

編者紹介  
嶋倉民生しまくらみお

現職 愛知大学経済学部教授

同 大学院中国研究科長

同 国際問題研究所長

一九三三年 中国遼寧省金州生まれ

一九五七年 宇都宮大学農業経済学科卒業

一九五九年 農林水産省入省

一九六四年 農林水産大臣官房企画官

一九六八年 アジア経済研究所在香港海外派遣員

一九七〇年 日中覚書貿易北京事務所代表

一九七三年 日中経済協会調査課長

一九八五年 アジア経済研究所動向分析部長

一九八六年五月以降 現職

(著書)

『北京日記』、日本経済新聞社、一九七二年。

『中国—その国造りの構図』、毎日新聞社、一九七六年。

(共著書・編著書)

『人民公社制度の研究』、アジア経済研究所、一九八〇年。

『中国経済の国際化と貿易発展』、アジア経済研究所、一九八一年。

『中国経済のダイレンマ』、有斐閣、一九八三年。

## アジアの経済圏シリーズ II

東北アジア経済圏の胎動——東西接近の新フロンティア

1992年3月30日発行©

編者

嶋倉民生

発行所

アジア経済研究所

東京都新宿区市谷本村町42

電話 03(3353)4231 (代表)

印刷・製本 コロニー印刷 ISBN4-258-23002-2  
落丁・乱丁本はお取替えいたします。

## アジアの経済圏シリーズについて

アジア経済研究所経済協力調査室では、昭和六十一年度から五年間にわたって、アジア各国・地域の工業化の実態と今後の可能性を探る「アジア工業化展望総合研究」を実施してきました。その成果はすでに「アジア工業化シリーズ」(全十五冊)として公刊され、好評を博しております。

「アジア工業化展望総合研究」が実施された八〇年代後半には、アジア地域の工業化の進展を示す新たな傾向として、この地域における経済的相互依存関係が急速に高まる様相を呈しており、これは、地理的に隣接していながらこれまで種々の条件により経済的結びつきが必ずしも強くなかった国・地域の間で、局地的な地域経済圏の形成を目指す動きとして表れてきています。こうした動きは、地域間の分業の展開を通じて域内諸国の経済発展を促進するだけでなく、世界経済に対しても積極的な影響を与える可能性をもっております。

こうしたことから、経済協力調査室では、平成三年度よりアジア工業化展望総合研究の一環として、新たに「アジア経済圏研究」を実施し、その成果を「アジアの経済圏シリーズ」として公刊を開始することとなりました。このシリーズでは、昨今注目されているアジア地域内の地域経済圏について、最新データに基づく域内各国・地域の経済発展および対外関係の分析を通じて、経済圏の実態、今後の発展可能性および予想される方向について検討を加えます。三年度にわたって、年度ごとに二冊の報告書を公刊する予定です。

各位のご愛読が頂ければ幸甚です。

平成四年 春

アジア経済研究所長 宗像善俊

東北アジア地域における東西緊張緩和、中国などの対外開放政策の進展とともに、日本・中国東北部・南北朝鮮およびロシア極東地域などからなる東北アジア経済圏（環日本海経済圏とも呼ばれる）の形成の動きが注目されつつある。

本書は最新のデータに基づいて、地域内各国・地域の経済発展と対外関係の実態、地域内の貿易・投資の動きを描き出し、地域経済圏としての発展の可能性とその方向を展望する。

●本書の構成●

- 第I章 序論 — 東北アジア経済圏形成への胎動
- 第II章 東北アジアの地域貿易と相互依存
- 第III章 中国と東北アジア諸国との経済関係
- 第IV章 中国東北地区の経済発展
- 第V章 ロシア極東地域の経済発展と対外経済関係
- 第VI章 朝鮮民主主義人民共和国の経済と対外経済関係
- 第VII章 韓国の対北方経済関係の発展と東北アジア経済圏
- 第VIII章 東北アジア経済圏の形成と日本の役割
- 第IX章 東北アジアをめぐる公的経済協力と民間直接投資

目次

はしがき

第1章 序論——東北アジア経済圏形成への胎動

鳴倉民生……………1

第1節 「環日本海経済圏」と「東北アジア経済圏」……………2

第2節 中国・東北三省現地での対話から……………4

第3節 「東北アジア経済圏」と「東北現象」……………8

1 沿海と内陸——東西格差……………9

2 沿海南部と沿海北部——南北格差……………10

3 重工業の東北・軽工業の華南……………11

4 重工業も高成長の沿海南部……………12

5 「東北現象」の要因考察……………14

第4節 華南から北上する「市場経済」……………18

## 第II章 東北アジアの地域貿易と相互依存

今井健一……29

はじめに……30

### 第1節 地域内貿易の概観……32

#### 1 貿易マトリックスによる検討……33

日本の地域内貿易／韓国・中国の地域内貿易／中国の地域内貿易／中国東北三省の地域内貿易／旧ソ連・北朝鮮の地域内貿易／日・韓・中三極体制の形成へ

#### 2 輸出結合度による分析……45

日・韓・中の輸出結合度／旧ソ連・北朝鮮の輸出結合度

### 第2節 域内相互依存関係の形成——日・韓・中を中心として……48

地域経済圏としての東北アジア地域

#### 1 工業製品貿易における韓国・中国の分業の展開……50

韓国・中国——輸出の構造変化／韓国・中国の比較優位構造／東北三省の品目別輸出パターン

——一次産品依存からの転換

#### 2 需要者・供給者としての日本……59

需要者としての日本の役割／供給者としての日本の役割

3 中韓経済関係の進展……64

中韓貿易の内容

第3節 東北アジアにおける経済圏形成の方向……70

地域経済圏の将来像——西太平洋地域の局地経済圏へ／地域経済圏の意義／

今後の課題——中韓両国における輸出・産業構造調整

### 第三章 中国と東北アジア諸国との経済関係

馬成三……77

はじめに——ますます重要な度を増す対東北アジアの経済関係……78

第1節 中国と日本との経済関係……81

1 新たな発展をみせる中日貿易……81

2 日本の対中直接投資と資金協力……86

3 一九九〇年代の課題……88

第2節 中国とソ連との経済関係……90

1 曲折の多い中ソ経済関係……90

2 活況を呈する国境貿易と労務・技術協力……93

3 中国の対CIS諸国との経済関係の展望……95

第3節 中国と朝鮮との経済関係……97



## 第IV章 中国東北地区の経済発展

栗林純夫……………109

1 中朝貿易の発展……………97

2 一九八〇年代以来の変化……………100

第4節 中国と韓国との経済関係……………102

1 急増している中韓貿易……………102

2 韓国の対中直接投資……………105

第1節 「東北地区」の概念……………110

第2節 経済発展の趨勢……………113

1 人口増加と経済成長……………113

2 経済成長の要因——需要構造の変化……………117

蓄積率と投資効率／投資構成の推移／貿易と外資導入

3 経済成長の要因——供給構造の変化……………122

第3節 東北地区の経済地理と地域連携……………129

1 遼寧省……………129

2 吉林省……………131

3 黒龍江省……………132

4 東北地区の全体像……………134

第4節 東北地区開発の展望……………138

1 新しい経済論理の浸透……………138

2 新しい物流ネットワークの可能性……………139

3 産業政策の新たな視点……………141

国営企業の効率改善／新たな資本蓄積源の確保

4 おわりに……………145

## 第V章 ロシア極東地域の経済発展と対外経済関係

——不合理な国内分業からの脱却と国際分業への転換

蓮見雄……………149

はじめに……………150

第1節 ペレストロイカのもとでの極東地域の胎動……………152

1 連邦の解体……………152

2 経済危機……………153

3 極東地域の経済的自立への動き……………155

第2節 ソ連経済における極東地域の地位……………158

1 豊かだが未開発の資源……………158

2 産業配置……………160

3 不合理な地域分業と産業構造の欠陥……163

第3節 対外経済関係の現状……166

1 一般貿易……166

貿易構造／貿易の地域構造

2 貿易形態の多様化……171

国境貿易・沿岸貿易／コンペンセーション

3 外資導入の現状……175

ソ連における外資導入の現状／極東地域における外資導入の現状

第4節 極東地域開発構想……179

1 従来の開発構想……179

2 新たな開発構想……180

3 経済特区構想……182

ナホトカ特区／サハリンの独自の立場／大ウラジオストク自由経済地域構想

第5節 東北アジア経済圏形成におけるロシア極東地域の役割……187

第VI章 朝鮮民主主義人民共和国の経済と対外経済関係

谷浦孝雄……193

はじめに……194

第1節 北朝鮮の社会主義建設と対外経済関係……196

- 1 「自立的民族経済」路線の確立……196
    - 深刻化する経済／経済困難の根は一九六〇年代に／一九七〇年代の経済拡大と外資導入／
    - 対外債務の焦げつきと自立的民族経済路線の強化
  - 2 自立的民族経済路線がもたらしたものの……202
    - 人材開発の歪曲／社会的分業の後退と大衆動員の恒常化／経済の「非経済化」——コスト概念の蒸発
  - 3 自立的民族経済の矛盾……206
    - 経済の二重構造——国家経済と「非公式経済」／対外貿易の「生命線」化
- 第2節 開放政策と「東北アジア経済圏」……211
- 1 合営事業の推進……212
    - 合営法の制定とその背景／在日朝鮮人が主役
  - 2 「自由経済貿易地帯」の設置とその背景……215
    - 東北アジア経済協力への参加／「友好貿易」の中止
- 第3節 今後の展望……219
- 1 開放化と政治改革……219
    - 唯一指導体制の閉塞性／体制維持と開放化の調和
  - 2 開放化と在外コリアンの役割……223
    - 在外コリアンの潜在力／東北アジア経済交流と在外コリアンのネットワーク

## 第七章 韓国の対北方経済関係の発展と東北アジア経済圏

花房征夫……………227

### 第1節 進む北方諸国との経済交流……………228

#### 1 一九八〇年代後半に急進展……………228

北方政策／急進した関係改善

#### 2 顕著な貿易拡大……………231

#### 3 直接投資の動き……………232

#### 4 補完関係に特徴……………233

### 第2節 深まった韓中経済関係……………235

#### 1 経済交流の歩み……………235

中国对外开放が交流の契機／外交関係樹立が焦点

#### 2 深まる実務関係……………238

交流ルートの多様化／注目される黄海経済圏

#### 3 顕著な貿易拡大……………241

#### 4 進む直接投資……………243

### 第3節 急進展した韓ソ経済関係……………245

#### 1 劇的な国交樹立……………245

2 急伸した貿易……………247

3 現代グループが投資活動を主導……………248

#### 第4節 動きだした南北関係……………250

1 七・七宣言……………250

経済交流は最近のこと／一九九一年、貿易が急増

2 進む南北関係……………253

不可侵条約の締結／動きだした韓国企業／潜在貿易規模は七〇億ドル

#### 第5節 期待大きい東北アジア経済圏……………256

1 経済協力による交流……………256

使われない「日本海」という表現／EC型は時期尚早

2 開かれた経済圏を主張……………260

3 豆満江流域開発と韓国……………261

南北が同時推進／韓国にもメリット

### 第VIII章 東北アジア経済圏の形成と日本の役割

深川由起子……………267

はじめに……………268

第1節 経済交流の条件……………269

|                          |                          |     |
|--------------------------|--------------------------|-----|
| 1                        | 「環日本海経済圏」と地方のイニシアチブ…………… | 269 |
| 2                        | 交流インフラの現状……………           | 272 |
| 第2節 東北アジア圏のビジネスチャンス…………… |                          |     |
| 1                        | 資源開発……………                | 276 |
| 2                        | 資源加工……………                | 281 |
| 3                        | 観光・サービス……………             | 284 |
| 第3節 東北アジア圏と日韓の企業戦略……………  |                          |     |
| 1                        | 日本企業の事業活動……………           | 286 |
|                          | 対韓国事業／対中国事業／対旧ソ連事業       |     |
| 2                        | 韓国企業の事業活動……………           | 291 |
|                          | 対中国事業／対旧ソ連事業             |     |
| 第4節 東北アジア圏と日韓の役割……………    |                          |     |
| 1                        | 日韓共同市場への期待……………          | 295 |
| 2                        | 重層的技術移転……………             | 296 |
| 3                        | オーガナイザーとしての日本……………       | 298 |

第IX章 東北アジアをめぐる公的経済協力と民間直接投資

北村 肇……301

はじめに……301

第1節 東北アジア地域に対する日、米、ECおよび国際開発機関からの公的協力実績……306

1 一九八〇年代のネット資金フロー……306

旧ソビエト連邦・北朝鮮への資金フロー／中国への資金フロー／韓国への資金フロー

2 中国東北地域（東北三省および内モンゴル）に対する公的協力……313

日本の公的協力／国際開発機関による協力

第2節 東北アジア地域に対する民間直接投資……322

1 日本の対東北アジア地域投資……323

韓国向け直接投資／中国向け直接投資／旧ソビエト連邦向け直接投資

2 中国の直接投資受入れ状況……333

外資利用と直接投資／直接投資の地域分布と東北・内モンゴル／

業種別内訳と東北・内モンゴル

おわりに……338

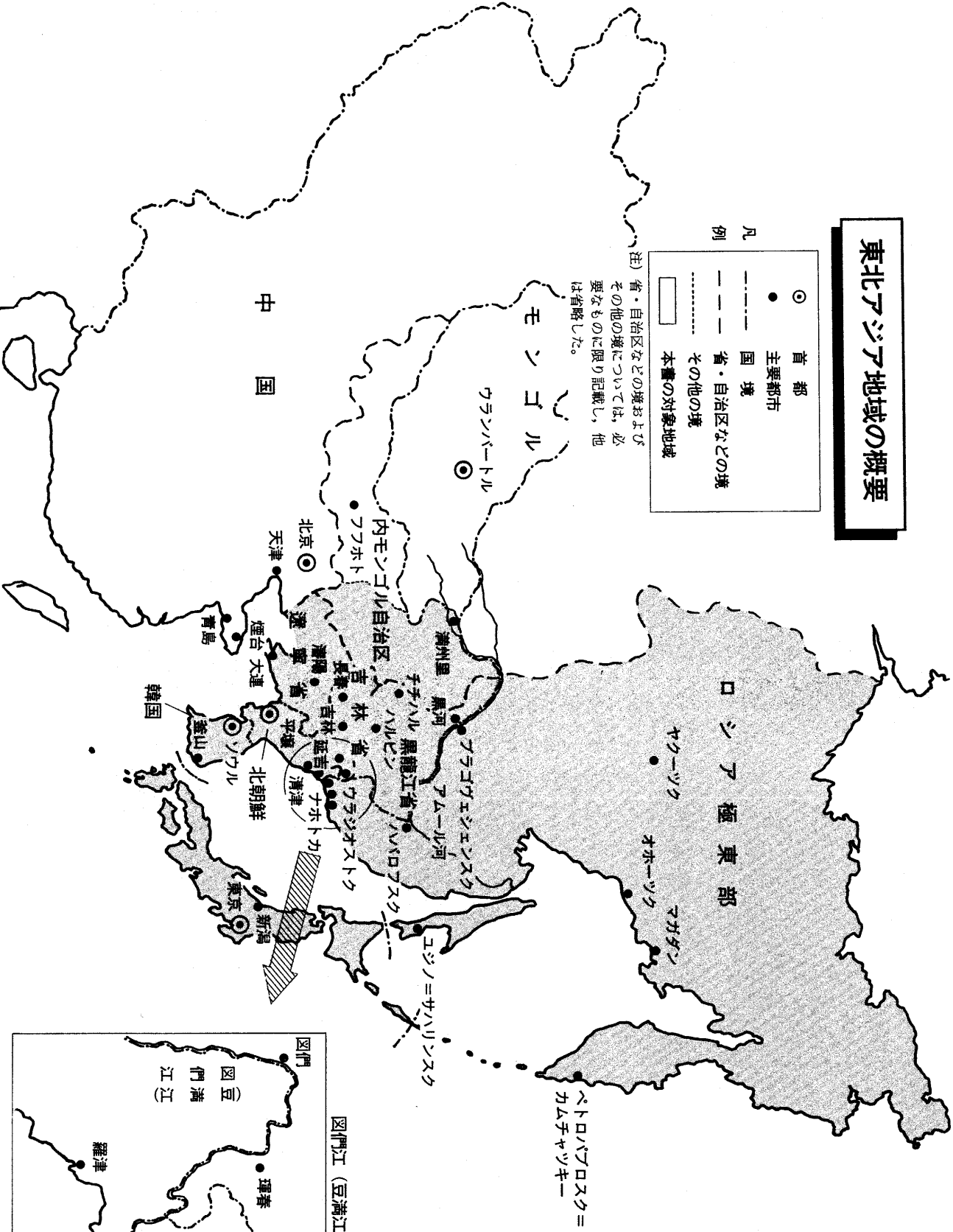


# 東北アジア地域の概要

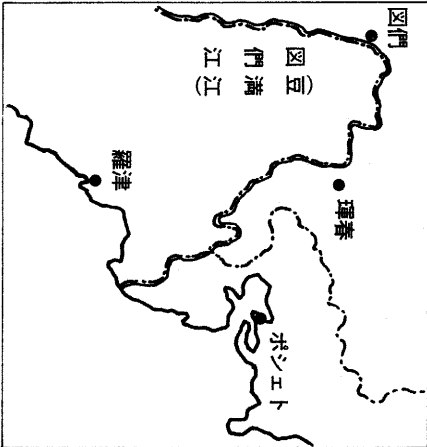
凡例

|       |           |
|-------|-----------|
| ◎     | 首都        |
| ●     | 主要都市      |
| —     | 国境        |
| - - - | 省・自治区などの境 |
| ⋯⋯    | その他の境     |
| □     | 本書の対象地域   |

(注) 省・自治区などの境およびその他の境については、必要なもの限り記載し、他は省略した。



図門江(豆満江)地域



執筆者紹介 ● (執筆順 / 所属・役職名は一九九二年三月末日現在)

嶋倉民 ● 愛知大学経済学部教授

今井健一 ● アジア経済研究所経済協力調査室

馬成三 ● アジア経済研究所客員研究員

栗林純夫 ● 東京国際大学経済学部助教授

蓮見雄 ● ソ連東欧貿易会ソ連東欧経済研究所調査部研究員  
(九二年四月より立正大学経済学部専任講師)

谷浦孝雄 ● 新潟大学経済学部教授

花房征夫 ● アジア経済研究所図書資料部長

深川由起子 ● 長銀総合研究所調査事業部国際調査第二部  
副主任研究員

北村肇 ● 日本輸出入銀行海外投資研究所次長